

6-5 飛騨地方周辺の最近の地震活動

Recent Seismic Activity in the Northern Hida and its Adjacent Regions

京都大学防災研究所
地震予知研究センター

Research Center for Earthquake Prediction,
Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University

飛騨山脈下では、前報¹⁾に述べた通り、1990年1月24日以来、活発な群発地震活動が始まり、乗鞍岳南西～焼岳周辺～鳥帽子岳～焼岳東方～乗鞍岳南西へと活動が移動する経過を辿ったが、5月以降はかなり活動が減少した。5月11日乗鞍岳南西でM3.7、長野県西部地震余震域で5月21日M4.6の地震が比較的顕著なものである。

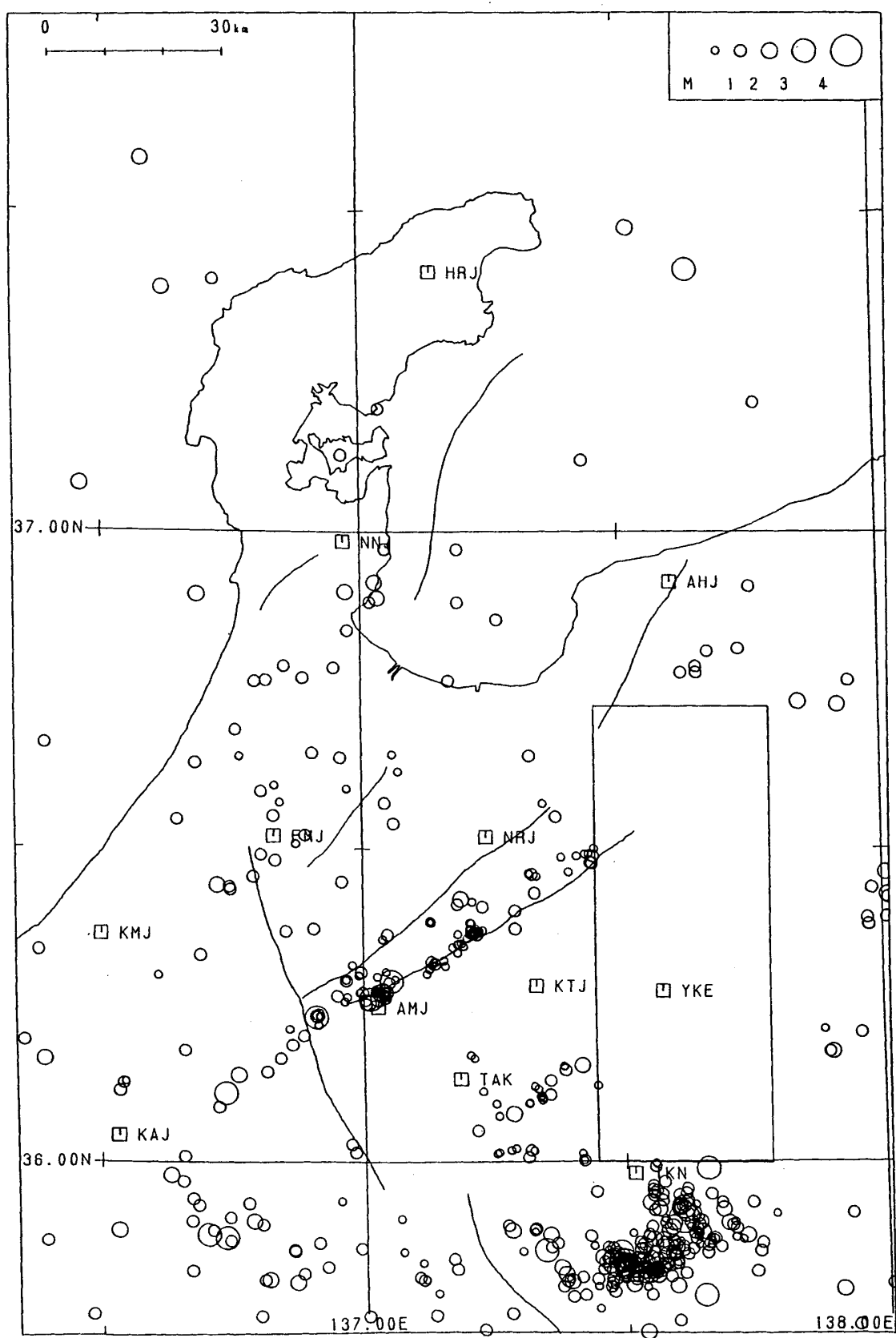
第1図は、飛騨地方周辺の1990年1月～6月の地震活動状況であるが、図中実線で囲った飛騨山脈下の震源分布を深さとともに第2図に示した。この期間中に発生した地震は2,000個を超えるが、大部分が乗鞍岳南西、焼岳周辺、鳥帽子岳西方に集中し、震源の深さは8kmより浅いものが多い。このうちM ≥ 3 以上の地震の地域別発生数は乗鞍岳南西で32個（うちM ≥ 4 のもの3個）、焼岳周辺で4個（同2個）、鳥帽子岳周辺で43個（同7個）、合計79個（M ≥ 4 のもの12個）に達した。第3図は乗鞍岳南西で発生した地震の1月～6月における日別頻度分布を示す。

この後、飛騨山脈下では、乗鞍岳南西の定常的活動を除き比較的静穏であったが、10月下旬より再び小規模な群発活動が活発化した。10月29日より31日迄の2日間に最大M3.1を含む179個の群発活動が鳥帽子岳のすぐ西側で発生、11月24日には鷺羽岳～三ツ俣蓮華岳の中間で最大M2.2を含む133個の活動が始まった。これらの震央位置を第4図に示す。震源は何れも極めて浅い。後者は従来殆ど活動の見られなかった位置であり、今後の推移が注目される。

第5図は、1990年7月以降の飛騨地方周辺の主な活動を示す。8月12日M3.8、同13日にはM4.3の地震が富山湾岸の新湊付近で発生、両者のメカニズムは殆ど同じで、横ずれ断層型である。11月16日には能登半島東岸でM3.8の地震、11月26日には富山平野東部の黒菱山断層南西端付近でM4.1の地震が発生、後者は若干の余震を伴った。

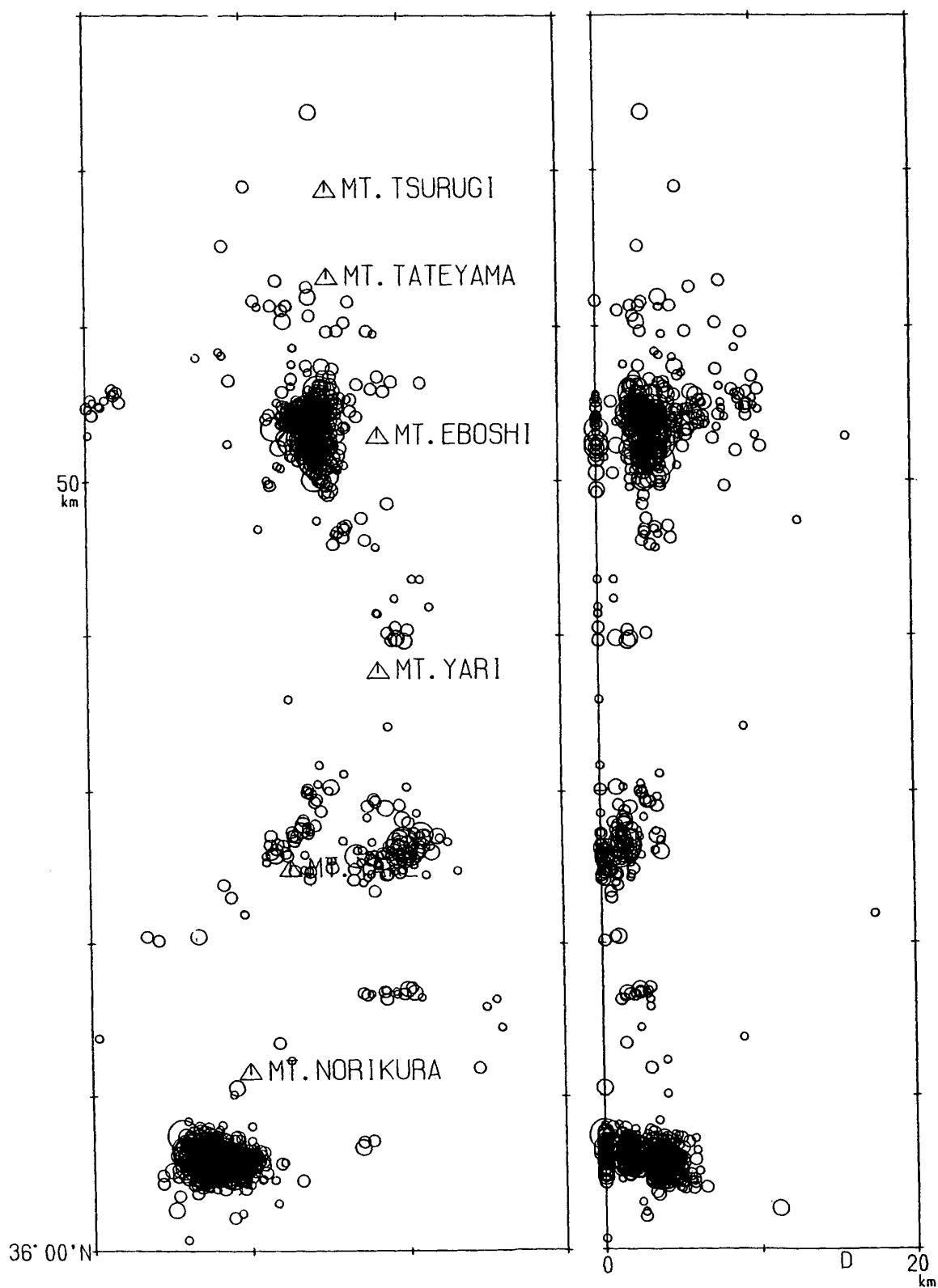
参 考 文 献

- 1) 京都大学防災研究所上宝地殻変動観測所、飛騨山脈下の最近の地震活動、連絡会報、44（1990）、339-348.



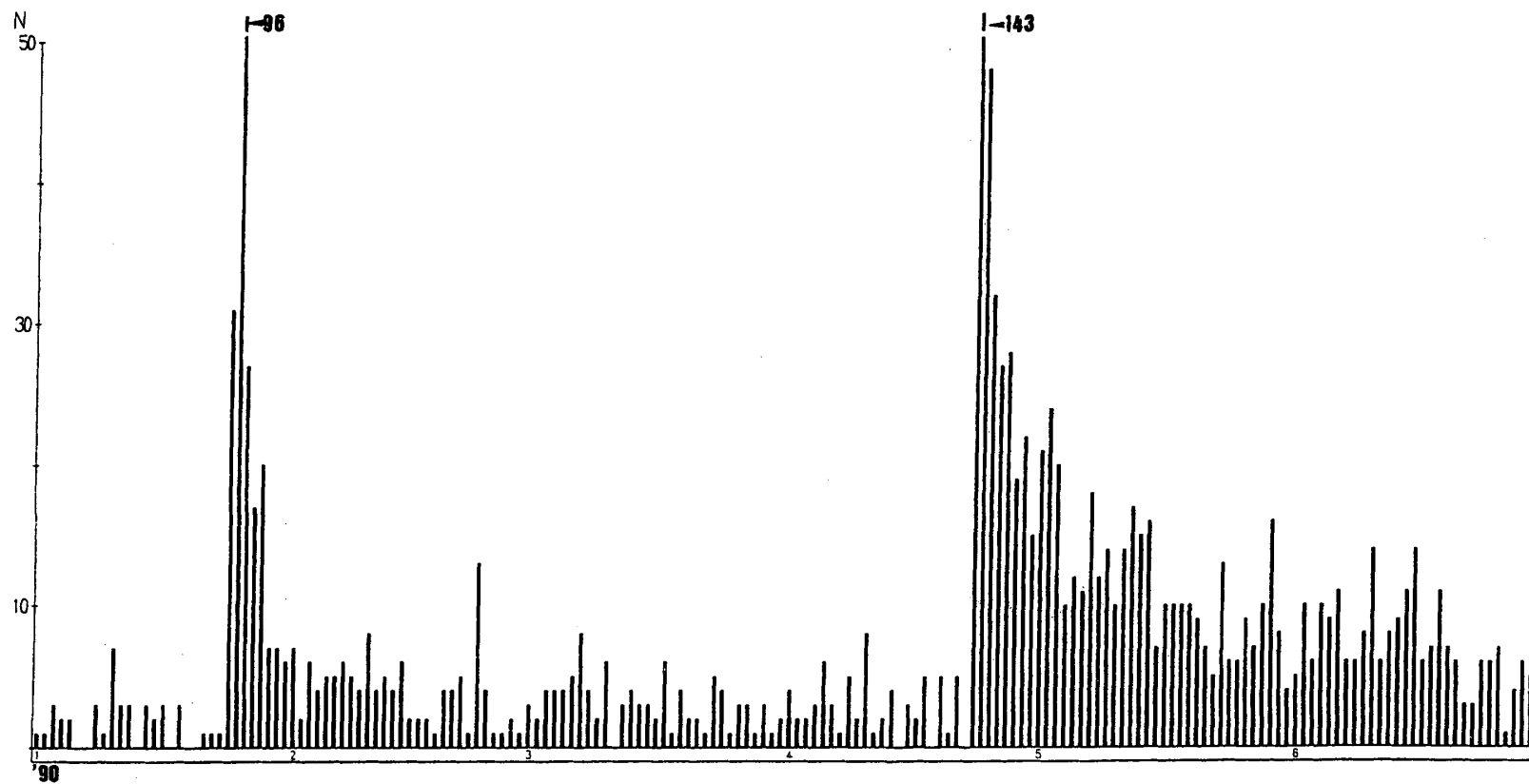
第1図 飛騨地方周辺の地震活動, 1990年1月～6月

Fig. 1 Seismicity in the northern Hida and its adjacent regions, during the period January – June, 1990.



第2図 飛騨山脈下の地震活動，1990年1月～6月。(左)震央分布，(右)震源の深さ。

Fig. 2 Seismicity beneath the Hida mountains, during the period January – June, 1990. Left; epicentral distribution, Right; depth profile.



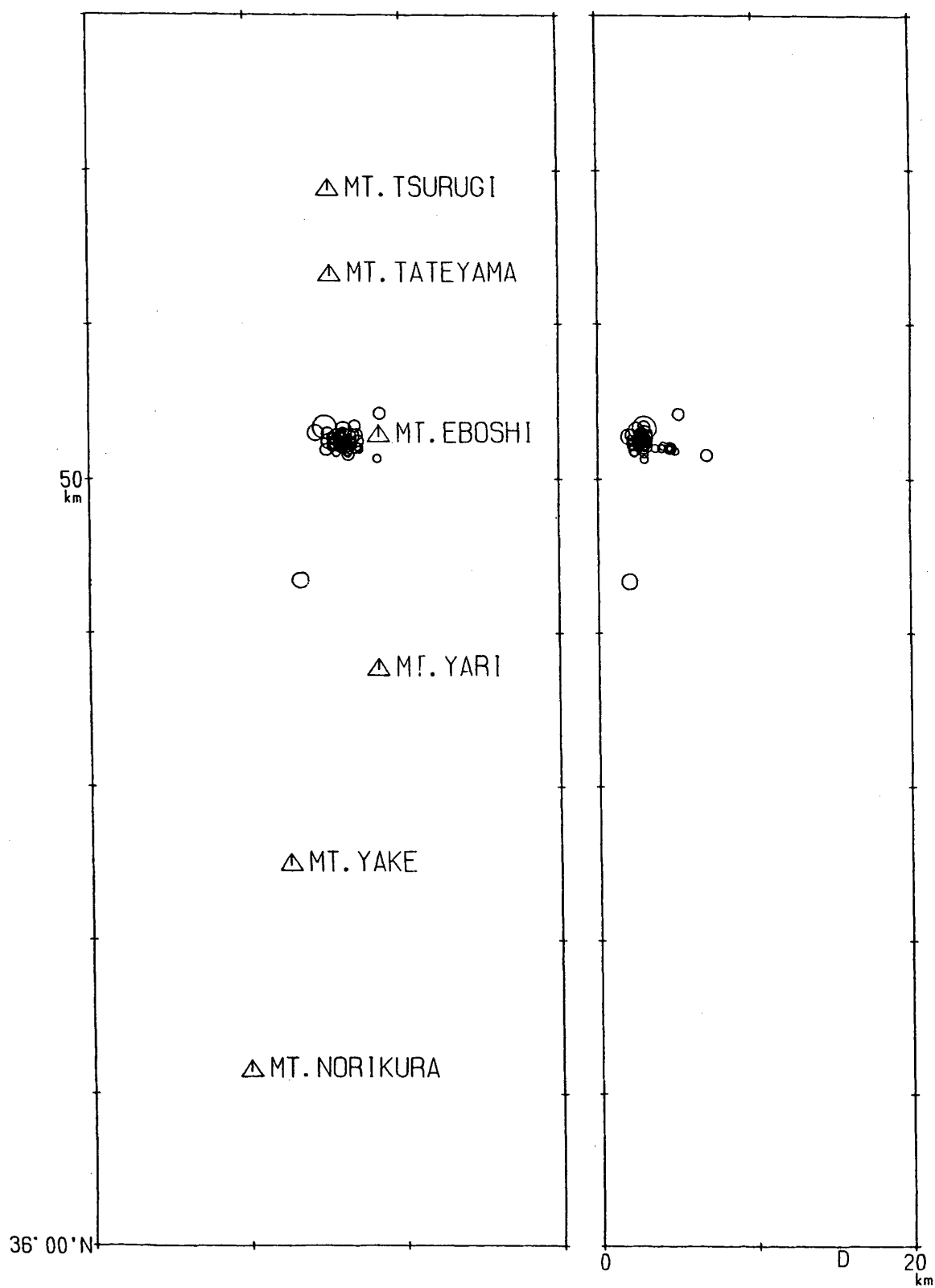
第3図 乗鞍岳南西の地震活動，1990年1月～6月，日別頻度分布。

Fig. 3 Daily numbers of swarm earthquakes southwest of Mt. Norikura, during the period January – June, 1990.

DISTRIBUTION OF EPICENTERS BENEATH THE HIDA MOUNTAINS

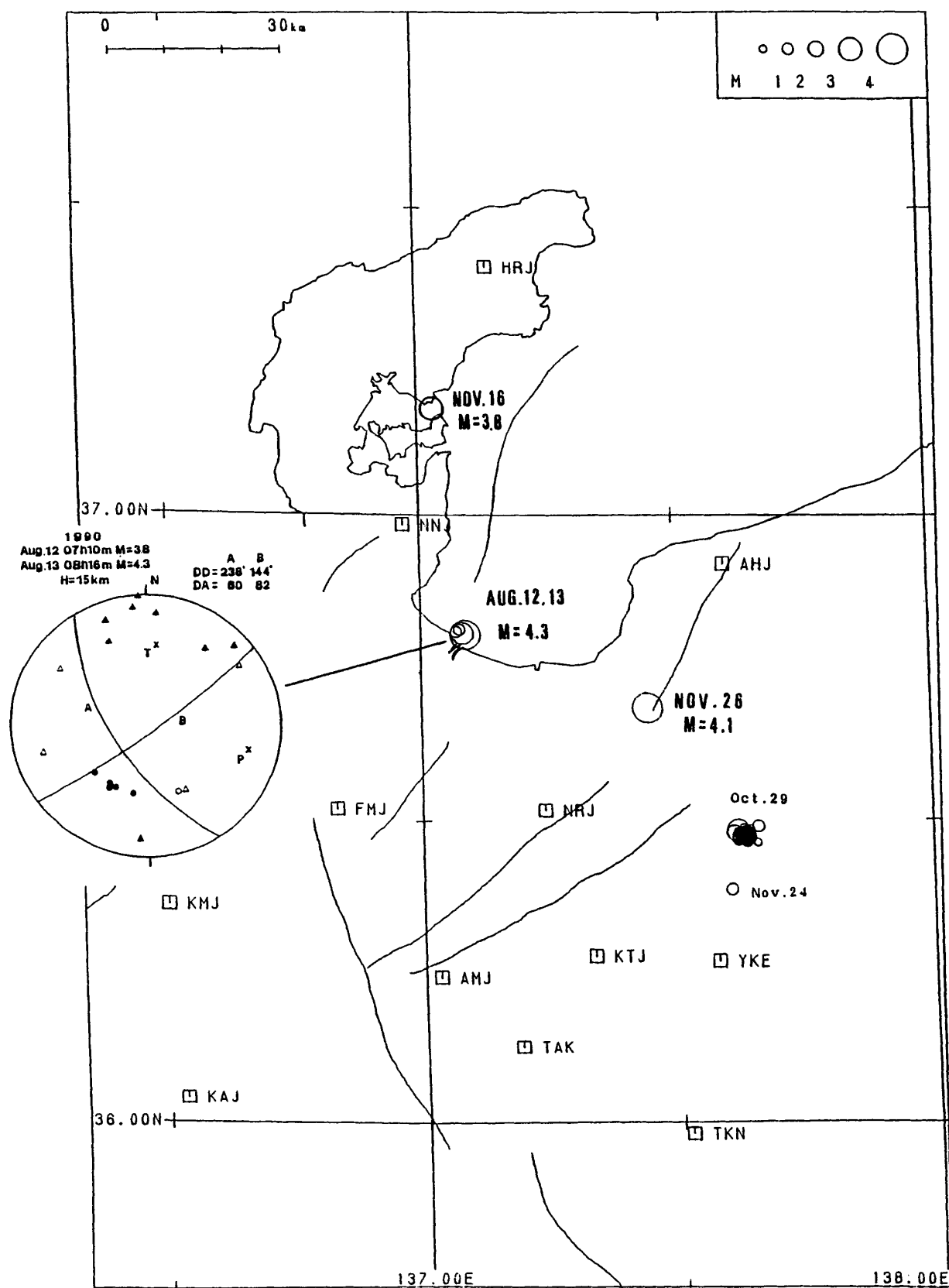
90 10

TOTAL= 67



第4図 飛騨山脈下の最近の群発地震活動

Fig. 4 Recent seismicity beneath the Hida mountains, October – November, 1990.



第5図 飛騨地方周辺の最近の主な地震活動

Fig. 5 Moderate-size and swarm earthquakes in the northern Hida and its adjacent regions, during the period July - November, 1990.